

# Orpanos

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

ウーラノス

Vol.11  
OCTOBER 2002

『Orpanos(ウーラノス)』は、「天」を意味するギリシャ語です。新約聖書は、土橋礼拝堂のステンドグラスに描かれている場面、すなわち、復活のイエスが天に昇る様子を「そして、祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた(ルカ福音書24章51節)」と記述しています。この個所にも、οὐρανόςの語が用いられています。

特集

## 『東北学院大学の教育と研究の改革』

—学長、新学科増設を語る—

NEW WAVE T.G.U.

NEW WAVE T.G.U.特集.....  
島崎藤村と東北学院.....  
歴史を伝え、今に導く.....  
学長室より.....  
同窓生を訪ねて.....  
大学院より.....  
学部より.....  
国際交流センターより.....  
図書館より.....  
協奏、そして共創へ.....  
就職部より.....  
入試センターより.....

表紙：泉キャンパス1号館

「改革なければ前進なし」は、大学の自己改革にも適用されている言葉です。東北学院大学に託されております高等教育機関としての使命を遂行すると同時に、内外より寄せられております期待に応えるべく、さらに努力し前進したいと考えております。

# 『東北学院大学の教育と』



学長 倉松 功

## 『研究の改革』—学長、新学科増設を語る—

—昨年、平成12(2000)年9月の「本学の今後の教育と研究の改革についての提案」は、本学が研究を重んじつつも、教養教育型大学として進める今後の改革の方向の一端を明らかにしたものです。その提案は、大きく分けて5項目からなっています。その中で、全学的教養教育に関わる中心は、教養学部の充実(新学科増設)と<sup>1</sup>ファカルティ・ディベロップメント、<sup>2</sup>TOEFLもしくは<sup>3</sup>TOEICの採用と<sup>4</sup>主専攻・副専攻制度の導入という4つになるでしょう。しかし、この4つのうちファカルティ・ディベロップメントは、大学の教育・研究すべての営みに関わることです。それゆえ、今回は、教養

学部の充実と主専攻・副専攻制度、もしくはそれに準じる学内単位互換について記すに留めたいと思います。

他方、私の学長就任以前より、志願者の動向(社会的ニーズ)と就職先(卒業後の進路)の状況から、本学の全学的学部学科の組織改革が迫られていました。この問題を、前述の教学的学長提案と絡ませて、昨年5月以降学部長会において、組織改革(学科増設)について討議を重ねてきました。その結果が、去る7月25日の全学教授会(同31日理事会)で提案された「学科増設に関する件」です。その議案をまず掲載します。

## 『東北学院大学の教育と

本件の内容を一言で申し上げますと教養学部環境地域学科を増設するため設置準備委員会を設立する件ということになります。

昨年5月以降学部長会において全学的見地(全学的見地というのは本学の、既に承認されています教員数また学生規模の中で、競争力のある学部、学科を牽引力として競争力の弱っている学部の協力を得、学科の新設、学部の改革を図るということ、とりわけ緊急を要するのは、本学の最も伝統のある英文学科の定員削減に伴う学生の配分ということです)から大学の改革について種々検討してきました。この英文学科定員削減をどうするかという点について、全学的見地から考えることについては、全学部長の利害をこえたご協力をありがたく思っています。そして、昨年7月以降本年1月まで英文学科定員100名減を前提として今後の大学全体の改革について学長他、両副学長、各学部長の意見の開陳を受けました。英文学科100名、史学科地理部門50名、経済学部50名の配分を受けて、新教養学部設立構想を2月7日に私が提案しました。そして、それを学長諮問委員会に附すことが学部長会議で承認されました。その内容は現在の教養学部3専攻を3学科に昇格させると共に、あらたに地域文化学科(仮称)を加えて教養学部収容定員1600名の新学部の設置というものでした。諮問委員会は当時の法学部長阿部純二教授を長として、文、教養、工学の各学部長を含む8名の委員からなるものでありました。本年7月19日同委員会からは、新学科の名称については市場調査を行いそれを参考にすることを前提に環境地域学科(仮称)を教養学部におくことの答申を得ました。



# 『研究の改革』—学長、新学科増設を語る—

## 第23回東北学院大学 オープン・カレッジのご案内

本学社会福祉研究所の主催するオープン・カレッジが、『福祉社会論』未熟な、成熟した、それとも衰弱する？福祉社会 と題して、学内外の10名の講師による講義形式で開催しています。参加をお待ちしております。

### 日程

平成14年9月26日(木)、10月3日(木)、  
10月10日(木)、10月17日(木)、10月  
24日(木)、10月31日(木)、11月7日(木)、  
11月14日(木)、11月21日(木)、11月  
28日(木)

### 時間

18時30分～20時00分(9月26日と  
11月28日の終了時間は20時20分)

### 場所

本学土樋キャンパス8号館5階  
押川記念ホール  
(10月10日のみ6号館621番教室)

### 受講対象

本学学生並びに仙台市及び地域住民

### 受講料

1,500円(講義報告集及び郵送代を  
含む10講義分)  
郵便振替にて受付します。

### 問い合わせ先

社会福祉研究所  
TEL. 022-264-6362



そこで私は、その答申を基にして環境地域学科の設置準備委員会を関係学部責任者を中心に設置し、平成16(2004)年開学を目標に更に検討を加えていただきたいと思います。学部長会、部長会の議を経て、本日その設置準備委員会を設置することの承認を全学教授会で得たいと提案する次第です。

因みに設置準備委員会の長は互選とし、両副学長、文、経、法、工、教、5学部長、そして史学科、教養学部から1名それぞれ当該学部長の推薦によるものを加えた方々によって構成されます。その設置準備委員会で作った案を各学部教授会、全学教授会で審議して戴くという手続きになります。

平成14年7月25日全学教授会提案より

この提案に基づく設置準備委員会の結論は、当然全学教授会で再び審議されますが、この件に関するすべての審議は、平成16(2004)年4月の開設を前提に進められるでしょう。なぜなら、全学的カリキュラムの改革がその年から始まるからであり、新学科、新教養学部の発足を幸先よいものとするためにも、本学の法科大学院(ロースクール)の設置とともにしたいからです。

次に、新学科増設とともに、特に強調したいのは、本学の教養教育型大学としての歴史と東北に対する地域的貢献です。高度の専門的知識・技術とともに、幅広く高等教育の教養を身につけた人々の育成という貢献です。この課題に応えることは、広く職業選択を可能とします。とりわけ複雑化し、多様な判断を必要とする社会に

対応する人材の育成ということになるでしょう。それゆえ、学部、学科間の単位読み換え、互換をさらに進め、主専攻・副専攻の制度を導入したいのです。この制度による活性化は、この制度の導入が容易な学部及び学部間だけでなく、全学的なものにしたいのです。この制度はTOEFLやTOEICと同様、学部教育改革の中心であるとともに、学部教育の重要な補強手段として用いていただきたいと思います。

1 ファカルティ・ディベロップメント  
大学等の理念・目標や教育内容・方法を改善するための組織的な研究・研修などの取り組み。

2 TOEFL  
英語を母国語としない人々を対象に、アメリカおよびカナダに留学して学業を行える能力があるかどうかを検定する試験。

3 TOEIC  
英語を母国語としない人々を対象に、英語を使った意思伝達の能力を測定する試験。

4 主専攻・副専攻制度  
専攻している分野以外の学問を体系的に学修することで、より幅広い能力を身につけた人材を育成するもの。





# 島崎藤村

没後60年目を  
迎えるにあたって



島崎藤村は、明治29年9月から翌年6月まで、東北学院普通科(のちの中学部)の英語・作文担当教師として教鞭をとりました(当時25歳)。有名な「若菜集」の素地ができたのもちょうどこの時期です。

今年は、島崎藤村没後60年目にあたり、全国統一企画として、ゆかりのある地でさまざまな記念事業が行われます。東北学院でも、『島崎藤村と東北学院』と題し、10月15日から20日までの6日間、大学土樋キャンパスを会場に、特別展示や記念講演などを開催いたします。

今回は、これを記念し、10月19日の記念講演をお願いしております本学名誉教授の久保忠夫先生にご寄稿いただきました。久保先生は、教養部(現教養学部)教授で、文学を専門とし、平成8年3月にご退職され、本学名誉教授となりました。

## 『島崎藤村と東北学院』

本学名誉教授 久保 忠夫

私は、群馬の中学校の生徒の時から、仙台に東北学院という学校があるのを知っていました。それは、パイプオルガンと島崎藤村によってです。その頃2年生まで「書道」と「音楽」がありました。音楽の時間に、パイプオルガンがあるのは日本中で3つ、上野の音楽学校と室町の三越と、それに東北学院という話を聞きました。音楽学校でもないのにパイプオルガンがある学校とはどのような学校だろうと夢を見るように思いました。島崎藤村については、2年生の後半に使った国語の教科書の巻頭が、『生い立ちの記』からとった「初旅」で、それを習った時、先生が藤村は詩人で、処女詩集を『若菜集』という、仙台の東北学院の教員をしている時、その詩の大方を作ったと教えてくれました。ですから、私の東北学院は、まず、「詩と音楽」の東北学院であったわけです。

それから60余年、東北学院とパイプオルガンの結びつきは、東北学院だけでも3台を数えるように一般化し、それにともなって消えてしまったように思われますが、藤村と東北学院と『若菜集』の結びつきは、一向にゆるがぬように見受けられます。

藤村が東北学院に在職したのは、そう長いことではありませんでした。明治29年9月から翌年6月で、厳密に言うとは1年ではなく、10ヶ月にも満たない短い期間でした。期間は短かったのですが、その間になした仕事の量と質を考えると、藤村在仙の意義は極めて大きいのです。詩は明治15年の『新体詩抄』に始まります。この詩集は詩という様式(ジャンル)を日本の文学史の上に打ち立てたという歴史的意義は大きいのですが、当時、植村正久が評したように「生硬蕪雑」で芸術性を欠いていました。明治22年に出た森鷗外らの「於母影(おもかげ)」は、芸術性をそなえておりましたが、残念ながら創作詩集ではなく訳詩集でした。明治30年の『若菜集』に至ってはじめて、芸術の薫り高い創作集の誕生を見たのでした。

藤村は、始めから仙台に行きたいと思っていたわけではなく、どこかへ行ってみたいと心の動くところへ、小此木忠七郎の紹介があって東北学院に来ることになったのです。仙台は、藤村に平穩をもたらしました。午前8時頃から午後3時頃まで、普通科で英文和訳と作文を教えるだけです。負担は重くありません。このようにして、藤村の繰り返し言う人生の曙が始まったのです。

## 校祖たちの壮大なビジョン

経済学部教授 仁昌寺 正一

ご承知のように、『東北学院』は、明治24年9月、『仙台神学校』を改称してスタートしました。そして、翌25年11月18日には開院式が行われました。この間、それまでの神学部に加えて普通科の学生も募集したこと、また、閉校した東華学校の生徒を受け入れたことなどから生徒数が激増し、明治24年9月に68名であった生徒数は、明治25年7月には2倍近くに増えていました。

このような状況の中、東北学院の校祖たちは、前途にどのようなビジョンを描いていたのでしょうか。明治25年7月頃の新聞を見ますと、その一端を知ることができます。

「...同院生徒は目下百三十四名ありて是迄の教室にては逆も間に合わぬ処より、今度又々二棟の教室を建築するとなし、何分工事を取急ぎ休業中に落成せしめ、尚諸器械等をも整備して、来る九月を以て盛大に全部落成、開校の式を挙ぐる都合なりと。尤も開校の上は、東北大学と改称し、文、理、化、政、哲等、諸学科専門となすの目論見にて、院長押川方義、副院長ホーイ氏は、休業中上京し、親しく帝国大学の学科程度を取調べらるる筈なりと」

(「奥羽日日新聞」明治25年7月6日)

校祖たちは、東北学院を“東北大学”という名称にし、多くの学科を併設する総合大学にしようとしていたということです。当時、総合大学は、明治19年に設立された国立の東京帝国大学1校のみでした。ちなみに、東北帝国大学(後の東北大学)が設立されたのは明治40年ですから、まだ先のことでした。もちろん、私立大学もまだありません。このような時代でしたから、早くも明治25年に、東京帝国大学をモデルにしつつ、総合大学を開設するビジョンを持っていたということについては、ただただ驚くばかりです。

残念ながら、このようなビジョンは、さまざまな事情があって第二次大戦前には実現しませんでした。しかし、昭和24年には新制大学となり、今日では、5学部11学科、大学院5研究科が設置され、学生数も1万3千人を擁するまでになっています。110年前に校祖たちが描いたビジョンに近づいているのかも少し見えます。



### オープンキャンパスに参加して

8月2日(金)に『オープンキャンパス』が開催されました。会場となった泉キャンパスと多賀城キャンパスには、約3,400人も高校生や一般の方々が訪れ、キャンパス内を自由に見学したり、模擬授業に参加するなど、“大学生”を体験しました。

訪れた高校生たちはどのようなことを感じたのでしょうか。



#### キャンパスを見学してみて、どうですか？

- 「施設や設備がとても充実していていいですね。特にパソコンの数が多いいのいい。高校は、自由に学びたくても設備の問題で無理なことが多いので、ここでたくさんのことを勉強したいです(県内男子高校生)

- 「礼拝堂で聞いたパイプオルガンの演奏に感動しました。キャンパス内を案内してくれた大学生の説明も、とても楽しくて分かりやすかったです(県外女子高校生)

#### 大学で何を学びたいですか？

- 「社会学に興味があるので、教養学部で学びたいと思っています。将来は人の役に立つ仕事がしたいです(県外男子高校生)

- 「高校の授業でフランス史が一番おもしろかったので、史学科に進みたいと思っています。特に革命時代に興味があるので、そのあたりをじっくりと学びたいです。大学の4年間にフランスにも行ってみたいので、語学にも力を入れたいです(県内女子高校生)

#### 大学で何をしたいですか？

- 「とにかくいろいろなことを学び、吸収したいと思います。クイズ研究会に入り、今まで貯めてきた知識と、これから学ぶ知識を活かして、クイズ番組の出場を目指したいです(県内女子高校生)

# From the President.

## 学長室より

### 世界学長会議と国際学会 シドニーとコペンハーゲン

学長 倉松 功

6月下旬、世界学長会議でオーストラリアのシドニーを訪れました。この会議は、情野前学長代理として出席した神戸会議以来、4度目になります。今回の会議の特徴は、グローバル化と大学の責任です（その中には自国の発展と利益のための責任も含まれる）。大学の責任の中で注目されたのは、「今日の学生は明日の指導者」というテーマの下でのいくつかのプレゼンテーションです。大学の質の向上、学生に伝える知識・技術の向上、独立した批判的科学的創造的教養、国際的対話、さらに教養（humanities）の重視などが取り上げられました。会議の最終日は、諸大学の見学日でした。私は、オーストラリアを代表するシドニー大学とニュー・サウス・ウェールズ大学を見学しました。シドニー大学では、日本語学科長クラーク教授や言語文化学部長などの懇談と学内見学の時を持ちました。オックス・ブリッジをモデルにした学寮と学寮附属チャペルを持った古典的の大学です。英語能力は、本学が推薦する学生であればよいので、是非学部交換留学を進めたいとのことでした。後者の大学は、建物自体も前者と異なり、いかにも理工学系の総合大学でした。その意味は、理工学を修める学生にとって必要な経営や法律も学ぶことができるシステム（諸学部）を総合大学として持っているということです。この方は、修士を含めた交換をしたいということでした。美しい自然と、冬でも緑と花の絶えることのないシドニーの温暖な気候にも魅せられ、優れた両大学との交換留学の実現を願った次第でした。

8月上旬、国際ルター学会のためデンマークのコペンハーゲンに一週間滞在しました。5年ごとの本学会に5度目の参加でした。この学会は、午前中に全体集会（2つの学術講演とシンポジウム）午後にはゼミナールが文化施設・教会見学、夜は大学と市や教会当局のレセプションという構成でした。今回も、コペンハーゲン大学、同市政府、王立図書館、ロスキルデ・ドウム見学、同接待がありました。しかし、学術会議としての成果がこの国際学会の一つの特長でし

よう。今回も「1530年後のルター」を全体テーマにして、ルターの宗教改革の後半15年間の神学、社会・政治、文化の多方面にわたる諸問題が研究課題でした。例えば、神の命令と自然法、キリスト論、男と女、トルコ（イスラム）領邦教会制度、シュマルカルデン戦争などをテーマに23の分科会にわかれ、一つの分科会は10人以下 私の出したのは5人でゼミナールが持たれました。所与のテーマに対する研究発表と討論の成果は、2年後「ルター年誌」に公表されます。既に世界的に知られた教授たちから、博士論文を公にしたばかりの若い研究者までが、円卓で研究発表し、それに基づく討議によって問題を共有し、残された課題を確認するのです。拙稿「ルターの公会議とかれの教会論の根拠としてのキリストの王権」の発表は約一時間かかりましたが、この学会出席もこれがおそらく最後でしょう。思い出の多いものとなりました。古くからの常連との再会は、何よりも楽しいものでした。

滞在中、同窓生アンデルセン・かずえ ご夫妻の池のほとりで緑に囲まれたお宅に招待されました。ご家族の方々との交わりの時を与えられ感謝でした。



コペンハーゲン





若合 春侑(わかい すう)さん  
1958年8月11日生 宮城県塩竈市出身  
仙台白百合学園高等学校卒業、東北学院大学経済学部経済学科卒業。広告代理店営業社員、新聞社アルバイト、添削指導員などを経て、1998年4月15日『脳病院へまゐります。』第86回文学界新人賞受賞、同年5月～執筆に専念。

—同窓生を訪ねて—

## “表現したい欲求”に 応え続けること。

第86回文学界新人賞受賞作家 若合 春侑さん

本学の同窓生で第86回文学界新人賞を受賞し、第119回から121回目の芥川賞受賞候補にもなられた作家の若合春侑さんに、文学界新人賞受賞作「脳病院へまゐります。」と、今年2月に刊行された「無花果日誌」の2作品についてうかがいながら、彼女の執筆に対するこだわりと、表現することへの思い入れについて、お話をうかがいました。

今年2月に出版された「無花果日誌」は、ご出身の塩竈が舞台になっていますが、これは自伝的小説として書かれたものですか。

「無花果日誌」は、自叙伝ではなく、自分の経験や記憶を材料にした小説です。高校時代に言いたくも言えなかったこと、感じていたのに表現できなかったこと、取りこぼしていた部分...、そういうことが愛おしく思えてきて、書いてみようと思ったのです。高校時代の思いといっても、その頃の文章は自己中心的で空回りしたものでしたから、やはり今でないと書けなかったと思います。

また、これまで正字正假名遣いで書いてきたことで、現代文になると文章が崩れてしまうのではという恐怖感があったので、言葉が無駄にしないよう大事に書くことを心掛けました。

第86回文学界新人賞を受賞した「脳病院へまゐります。」や「世間様かくありき」を正字正假名遣いで執筆されたのはなぜですか。

私が生まれた昭和30年代は、街の中にもまだ正字正假名の名残がありましたし、父母は正字正假名で教育を受けた世代です。母などは今も正假名遣いで文章を書いているくらいですから、私にとっては特別なものではなく、ごく身近なものだったのです。

35歳の時、あることをきっかけに谷崎潤一郎の初版本を集めるようになり、古本屋に通っていました。その時手にした昭和初期の婦人雑誌がおもしろく、その頃の女性たちに興味がわき、当時の女性を題材にした文章を書き始めたのです。とにかく、書けば書くほどおもしろくなり、表現したいことがどんどん膨らんでいきました。そして「脳病院へまゐります。」を一週間程で一気に書き上げ、文学界新人賞に応募したのです。

「脳病院へまゐります。」と「世間様かくありき」を正字正假名遣いで表現したのは、時代考証のようなものです。語り口にも徹底的にこだわったからです。時代劇に電信柱が出てこないように。

作家デビューされたのは、40歳になってからですが、作家になりたいと思ったのはいつ頃ですか。

思春期に、「自分って何者？」と考えることがあるでしょう。私は中学3年生の時点で「自分は文章を書いて苦しんで生きていくんじゃないかな」とおぼろげに思いはじめて、20歳の頃には「40歳になった時、作家になれるような生き方をしたい」と考えていました。この先の20年間は、何でも取り込んでやろう、小説を書くことが目的なのではなく、小説を書けるような20年にしてやろうと思ったわけです。そして、39歳の終わりに新人賞をとって、40歳で本が出て作家になったのです。でも、ずっとそう思い続けていたわけではなく、35歳の時に振り返ってみたら、「ああ、私何もしていないし、このままじゃ死ねない!」と思ったのです。あの時思い出したからよかったですね。

本学在籍中に夢になっていたことはどのようなことですか。

邦楽部で民謡と三味線をやりながら、ヤマハのポピュラーソングコンテスト(ポプコン)でニューミュージックを歌ってました。デビューの話もあったのですが、父親の反対で断念しました。その頃から自分を表現することに夢中だったのです。

在学生や、本学で学びたいと考えている方々にメッセージをお願いします。

大学の教科書を全部とってあるのですが、35歳を過ぎて社会学の本を読んでみたら、とてもおもしろかったです。在学中に十分に理解できなくても、いつかもう一度学んでみたいと思った時のために、卒業後も本棚に入れて置くことをお勧めします。

せっかく入学したのですから、この機会を無駄にせず、どんどん学んでほしいと思います。とにかくこの時期は、楽をしようとせず、徹底的に苦しんだ方がいいのです。逃げないで何でも取り込んで、自分で噛み砕き、それを栄養にしていければいいのです。

9月10日に若合さんの最新刊、「海馬の助走」が刊行されました。この作品は、若合さんのお父様が書かれた自伝をベースに小説化したものです。河北新報朝刊に月1回、エッセイ「微風旋風」が掲載されています。



### 公開クリスマスのご案内

本年も、公開クリスマスを下記のとおり開催いたします。厳かな雰囲気の中での説教、礼拝堂に響き渡る壮大な演奏をお楽しみください。多くの方々のご参加をお待ちしております。

#### 第14回泉キャンパス公開クリスマス

パイプオルガンの演奏や聖歌隊の合唱、キャンドルサービスなどが行われます。また、小さなお子さまにクリスマスプレゼントも用意しております。

日時：平成14年12月6日(金)

18時30分～

場所：本学泉キャンパス礼拝堂

説教：松田牧人牧師(日本バプテスト同盟礼府キリスト教会、平成10年本学キリスト教学科卒業)

#### 第53回東北学院公開クリスマス

聖歌隊と室内アンサンブルによるオラトリオ「メサイア」の演奏やキャンドルサービスが行われます。

日時：平成14年12月13日(金)

18時00分～

場所：本学土樋キャンパス礼拝堂

説教：塚本佳奈牧師(日本基督教団福島信夫教会、平成7年本学キリスト教学科卒業)



ラーハウザー東北学院礼拝堂(土樋キャンパス)

In autumn breeze.

## Graduate school info. 大学院より

### 経済学研究科

経営学専攻が文部科学省に認可されたことを受けて、本年4月から、経済学研究科は経済学専攻と経営学専攻の2つの専攻に分かれました。これにより、両専攻は、従前と同様にアカデミックな中にも、専門プロパー科目に特化した、よりナレッジブルでよりソフィスティケートなインテリジェント研究・教育に邁進する環境が整いました。

経済学研究科の大学院生数は、平成14年7月現在、博士課程前期課程に経済学専攻の1年生が6名、2年生が15名です。経営学専攻は1年生が5名です。博士課程後期課程に関しては、経営学専攻にはまだ設置されていませんので、4名

全員が経済学専攻の大学院生です。

経済学研究科で研究したのち、各界で活躍している同窓生は、現在100名を超えています。その中の一人に、現在コンビニエンスストアを経営しているS氏があります。S氏は大学院で研究したことを、実践の場で大いに活かしています。このように言うと、読者の中には「なんだ、コンビニだって、それがどうしたというのだ」と思う人もいるかもしれませんが、確かに、コンビニエンスストアの店長やオーナーには、大学院を出なくてもなれるでしょう。しかし、コンビニエンスストアの経営基盤となっている、フランチャイズ(FC)契約の理論

やコンセプトを深く学んだ上で、自分の事業計画を建てることが重要なのです。

ひと昔前に「親カメの上に子カメを載せて、子カメの上に孫カメ載せて、孫カメの上にひ孫カメ載せて、親カメこけたら子カメ・孫カメ・ひ孫カメ、皆こけた!」という早口言葉が流行しました。今までは「親」企業がしっかりしていないと「子」会社や関連会社はその影響を受けると考えました。しかし、今では「子」や「孫」の経営力が「親」を凌ぐことが多々あります。コンビニやスーパーでは、IV社やD社がその良い例と言えましょう。

時代の風は常に、よりインテリジェントへと変わっているのです。



#### 「情報」領域の充実と指導体制の整備

### 人間情報学研究科

本研究科は、教養学部を母体に平成6年4月に発足した比較的若い大学院です。学際的研究と教育を理念とし、カリキュラムは、基礎科目群と行動・社会・生命のコア科目群からなっています。平成8年4月には、博士課程後期課程が開設、発足以来修士(学術)61人、博士(学術)7人の学位取得者を輩出しています。平成13年度の学位取得者は、修士7人、博士1人となっています。

研究科創設以来の懸案事項の1つが、「情報」領域の充実でした。情報領域は、教養学部情報科学専攻の基幹の1つですが、諸般の事情により、それに対応する部門を欠いた状態で発足せざるを得なか

ったことによります。このため、平成13年度には従来の生命コア領域を生命・情報コアへと発展的に拡大し、カリキュラムの改編を実施、あわせて4人の教員の補充を行いました。なお、平成14年度の情報機器リース更新を機に、情報領域のインフラ整備を図り、新入生の教育に向けて万全の体制を整えたところでした。また、本研究科においては社会と数学の専修免許を出していますが、生命・情報コアの充実を踏まえて「情報」の専修免許を申請中です。

社会コアと行動コアにおいては、教員の欠員補充と指導内容の一層の充実がかねてより望まれていました。この

問題に対処するために、平成13年度においては社会コア2名、行動コア3名の教員を新たに迎え、認知関係を中心にカリキュラムの改編を実施しました。

本研究科は、当初より社会人や職者に対して門戸を開いてきており、院生の多くは社会人です。こうした院生の専門領域は広範多岐にわたっています。当然のことながら、その指導にも複数の研究領域にわたる教員の体制が求められるだけでなく、指導時間帯も院生の勤務状態に応じて可変的に組み立てなければなりません。ある時には日中、またある時には夜の10時過ぎまで、院生と教員の熱い討論と指導が日夜繰り広げられています。

# Faculty info.

## 学部より



### 経済学部

#### キャンパスの中の国際化

東北学院大学への外国人留学生は、大学院生も含めて全学で35名ほどです。この数自体は決して多いとは言えませんが、この内半数以上が経済学部在籍しています。また、国籍を見ると、他大学への留学生についても同様の傾向を見ることができますが、彼らの大半が中国及び韓国からの留学生です。彼らは、入学時こそ外国人留学生試験という特別試験を経て入学してきますが、その後は、他の日本人学生とまったく同様の条件で授業を受け、試験に合格しなければなりません。こうした条件のもとで、ほとんどの留学生が4年間で、しかも上位の成績で卒業し、さらに大学院に進学する者も多いのです。昨年、本学の大学院経済学研究科博士課程前期課程を修了した韓国からの学生は、学部1年生から6年間本学で学んだ後、他大学の後期課程に進学しました。また、この3月にも、中国からの社会人留学生が博士課程前期課程を無事修了しました。彼らにとって、ともに外国語である日本語と英語の文献を読み、日本語で論文を完成させることは、並大抵の努力ではないと推察されますが、彼らの勉学意欲と能力にはいつも驚かされます。

彼らはまた、日本での学生生活に見事に溶け込み、キャンパス・ライフを十分に楽しんでいるように見えます。若さゆえの特技と言えるかもしれません。

仙台は、地理的・経済的条件から、都市の規模に比して外国人が少ない方ではないかと思えます。大学のキャンパスで、学ぶという共通の目的を持つ外国人との出会いと交流は、異質な文化と触れ合う絶好の機会です。特に、彼らの持つプライドや愛国心、強烈な個性と向き合うとき、否応なしに自己を見つめ直す必要に迫られます。後期からは、アメリカとドイツの協定校からの交換留学生5人が、経済学部へ新たに籍を置くこととなります。多くの交流の場が生まれることを期待するとともに、それぞれの国の歴史や文化を尊重し、お互いの違いを認め合い、真の国際理解が実現するよう願っています。

#### 輝く教育・研究

##### 『地域経済』って？

経済学部教授 千葉 昭彦

「経済活動に伴う都市空間の秩序形成とその変容」研究テーマを聞かれたときにはこのように答えることにしています。なんとなく煙に巻いたような言い方ですが、具体的には、都市拡大としての宅地開発、工場やオフィスの集積や撤退、近年話題になることの多い商店街の衰退と活性化、等々。そして重要なことは、これらの現象がそれぞれの地域の中で相互に、密接に、関連しあっていることにあるのです。





## 教養学部

### 大学と職業教育

大学も社会の不況のあおりを受けています。就職部からは就職事情がままならないことを聞きました。その原因は、社会の側にあるばかりではありません。学生の意識レベルの質が、驚くほど変わってしまったことにも原因があるのです。危機意識の無さ、温室の中で育った甘えと依存、楽しければよいという享乐的傾向、若者であることをおだてる社会の甘い体質、これらすべてが学生から、自立への強い意志を奪っているように思えます。「他の人たちが行くから私も大学に行く」、「友だちが動くレールから私も外れたくはない」。こうした依存体質からは、他の人と違って「私は私」という強い自我が見えません。大学は、昔、中学・高校が果たしてきた役割をも抱え込まねばならなくなりました。すなわち、「弱くて稀薄な私」「曖昧で類型的な私」との対決です。大学は、こうした事態に対処し、どのような取り組みと成果を教育の文脈の中で獲得してきたのでしょうか。模索の試みがあれば、謙虚に教えを乞いたいと思います。

学生に、教養の基礎科目で論述の試験を行うと、その答案を見て本当に唖然とします。彼らは、日本語が書けないのです。それは論述以前の問題でしょう。語ろうにも語るべき自分がないからです。彼らの自我は、当たり障りのない匿名の主体に逃げ込んで生き延びてきた類型、パターンとしての自我のように見えます。無理もありません。対決して自我をそこで鍛えたはずの家族も、抽象的で明確な形を持たなくなりました。学ぶべき教師の造型にも、明確な輪郭がありません。憧れるべき大人の生き方も見えません。ならば、若者は取りあえず今のままでいい、今を適度に楽しんでも生きていける、流れていける。そのような若者の意識せざる諦念が見えてきます。

職とは何か、生を造型するデザインはどうあるべきか、そのことが「私」の確立とどうつながるのか。教養学部も、こうした問題を真剣に問うべき時期にきており、教育のシステムの中にこれをどう組み込み、活かすべきなのかを、模索し始めています。

### 輝く教育・研究

#### 公正な人事システムとは？

教養学部(人間科学専攻)教授 小林 裕

リストラ全盛の今、「日本的経営」は時代遅れといわれています。しかし、本当に無用なのでしょうか。それに代わるべきシステムとは何でしょうか。この問題を考える際のキーワードの1つが公正です。公正は、企業倫理にかかわるだけでなく、従業員の満足感や意欲を高め、それを通じて企業業績に影響する可能性が指摘されています。私は、現在東北地方の約1,000社の調査をもとに、組織心理学の視点からこのメカニズムの解明に取り組んでいます。



## International info.

### 国際交流センターより

#### 夏期留学

アメリカ・アーサイナス大学



協定校のアーサイナス大学への夏期留学が、8月1日から9月3日の日程で行われました。数々の貴重な体験を、参加した工学部電気工学科3年生の齋藤千春さんに報告していただきました。

#### 心と心の通信

「あ、リスだ！」そう言っていた頃が懐かしいように感じます。学生11人とディレクターの小柴先生、アシスタントの伊藤さんを交えて約2週間の寮生活が始まりました。アーサイナス大学は町から少し離れた田舎町にあり、とても新鮮な空気です。大学内は広く、迷路のよう。授業では自己紹介、アメリカに関するテーマに基づいて議論しました。本場の英語を聞いて、その速度に追い付くのがやっと。戸惑いと焦りが絶えません。でも、時間と聞く耳があれば何とか解決するでしょう。もちろん単語の暗記は必要不可欠かもしれませんが、会話をする事の意義に重点を置くべきだと思います。そして心の通じ合いと。

さまざまな“ペンシルバニア州”を見て来ました。米国誕生の地。自由の鐘の意味。初めてのプロ野球観戦。電化製品を使わず、心の触れ合いを大切に生きるアーミッシュの人々。手の器用さを要する、パッチワークに驚かされました。同じ協定校のフランクリン&マーシャル大学で見た東北学院大学の歴史。ディナーヴィジット...どれも貴重な体験です。

忘れてならないのはジャパンナイト。日

本を紹介するための祭りで、私たちにとって大きな仕事です。仕上がりは思った以上の出来具合。練習で何回も間違えた私の伴奏も、本番では緊張のせいかミスなしで大成功をおさめることができました。

ここで経験して来たことは、決して無駄にはいきません。これからの私がどうあるべきなのか、将来へ大きくつながれば幸いです。

#### 国際交流協定校

Ursinus College  
アーサイナス大学(アメリカ)  
Franklin and Marshall College  
フランクリン・アンド・マーシャル大学(アメリカ)  
Fachhochschule Wiesbaden  
ヴィースバーデン大学(ドイツ)  
Pyongtaek University  
平澤大学校(韓国)  
Nankai University  
南開大学(中国)  
University of Durham  
ダラム大学(イギリス)  
University of Ulster  
アルスター大学(イギリス)

問い合わせ先 国際交流センター事務局  
TEL 022-264-6425/6404  
E-mail : IC0@tssc.tohoku-gakuin.ac.jp

## Library info.

### 図書館より

#### 貴重図書を紹介

本学所蔵『ラテン語聖書

〔Biblia Latina〕(1487年)



1500年以前の印行本は、印刷文化史において初期刊本(インキュナビュラ)と呼ばれております。アントン・コーベルガー(Anton Koberger:1440-1513)は、その印刷業者として最も幅広い活躍をした人物の一人でした。彼は、15世紀後半に、中央ヨーロッパ最大の商業都市であり自由文化都市でもあったドイツ南部のニュールンベルグで工房を開き、100人ほどの職人と24台の印刷機を使い、その生涯において、12種のラテン語聖書と1種類のドイツ語聖書を含む236点の刊行を手がけたといわれております。特に、彼の作品の中でも、世界の歴史や地理に関する奇事・異聞を年代順に収載したハートマン・シェーデル『ニュールンベルグ年代記』(1493年)の刊行は著名です。

東北学院大学の中央図書館が所蔵している『ラテン語聖書』(1487年)は、四巻の中の最初の第一巻であり、旧約聖書の創世記から列王記までを収載したものです。そのページは、聖書本文の回りを、ソルボンヌの神学者であったフレンチスコ会士、リールのニコラウスによる注解が取り囲むというきれいなレイアウトになっております。また、手彩色をほどこした木版挿画も含まれており、保存状態は良好です。本書は、ルターの宗教改革以前のものであり、初期刊本やラテン語聖書に関する研究資料としても貴重なものであるといえます。

問い合わせ先 図書館事務局  
TEL.022-264-6491

# 協奏共創

## 協奏、そして共創へ

語り継ぐ伝統

### 77年目の『本館』 土樋キャンパス

学院長 田口 誠一



『本館』、これは東北学院専門部校舎(シュネーダー先生のいうRecitation Hall)として、大正14年11月の定礎式を経て翌年7月竣工、東北学院創立40年記念式(1886-1926)とともにその献堂式、記念行事を10月16日より4

日間にわたり行いました。これは、理事会が大正13年12月に専門部のために計画した7つの総合建物の第1号であり、ちなみにその第2号は昭和7年完成のラーハウザー記念東北学院礼拝堂、第3号は戦後昭和28年献堂のシュネーダー記念図書館でした。向山を目の前に、遙か経ヶ峰から青葉山、眼下には広瀬川の風光明媚の地を選定、その用地購入は早くも大正年間前半に終わり、続く校舎建築を前に大正8年3月の仙台大火で完全に焼失した中学部校舎再建を優先し、同意されていた専門部校舎のための資金は緊急流用せざるを得なかったのです。シュネーダー夫妻による米国の再度の募金活動に加え、日本国内での、特に東北学院全教職員、1,300名余の同窓生の全面協力と絶大な寄附を得てこの専門部校舎の完成にこぎつけたのです。上記定礎式における同窓であり理事の畑井新喜司博士の演説中、「この建物は実に院長夫妻の血と涙の結晶であり、また米国における献金も決して富豪の余財から得たものではなく、篤志家の浄財から基督教主義の教育を施す目的のため喜捨されたもの」とあります。建物は総延坪数600坪余りの中に、2階中央に院長室、大小教室はもちろん、事務管理部門、学生のための厚生施設、セントラルヒーティングなど、あらゆる最新式の設備を網羅し、当時の学校建築物としては東洋一と称せられる実に見事なものでした。

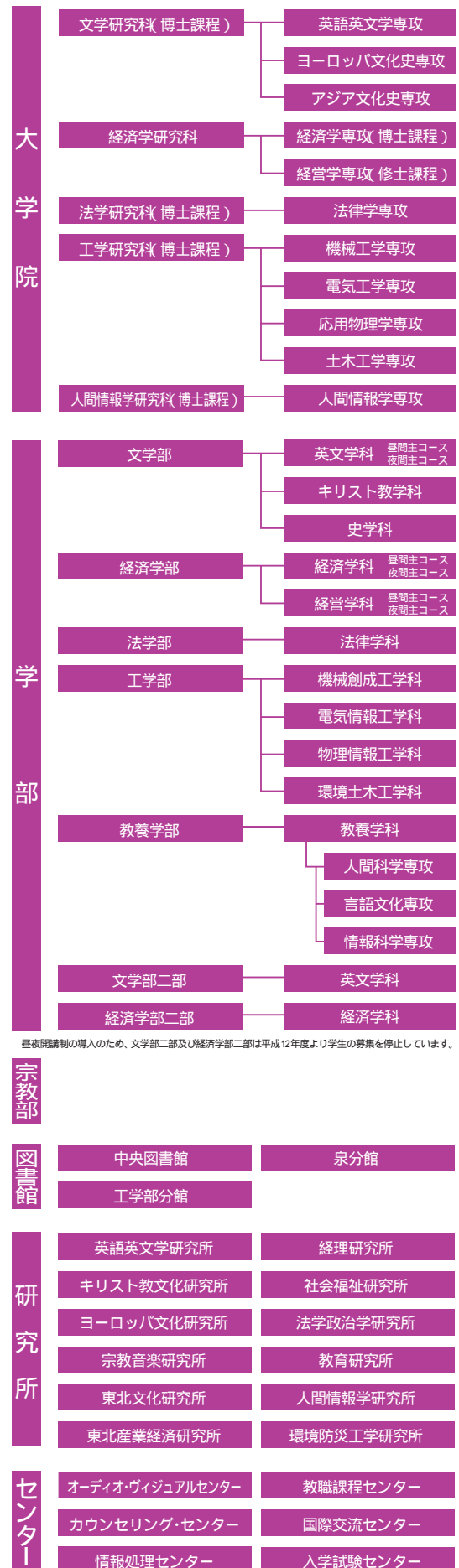
大学と家庭をむすぶ

### 後援会総会・地区後援会を開催

7月6日に、在学生のご父母を対象とする『後援会総会』を泉キャンパスで開催しました。当日は、1,700名を超える出席者を迎え、総会では、大学の近況や年間の活動方針が説明されました。また、大学礼拝からはじまる「大学開放プログラム」も同時に開催され、多数の方々のご参加をいただくことができました。出席された父母からの意見などを踏まえ、今後も大学と家庭の連携を深め、大学の改革・改善をさらに進めていきたいと思えます。

続いて、夏期休暇期間を利用し、北は北海道、南は静岡県浜松市までの計27会場で、『地区後援会』を開催しました。多くの父母の方々との交流を深め、ともに大学の現況と今後の方針について考える機会を持つことができました。

## Organization 教学組織



昼夜開講制の導入のため、文学部二部及び経済学部二部は平成12年度より学生の募集を停止しています。

## 就職部より

### 学生のキャリア形成について考える

就職部では、低学年からのキャリア形成指導の支援を、大学のあらゆるシステムを活用して行っていることを、繰り返し強調しています。特に、本年度の新入生オリエンテーションプログラムの中で「自ら目的意識を持って学び、さまざまな活動を通じて自分を高めていく姿勢が何よりも大切である」と訴えてきました。個々人の個性を生かしたキャリア開発が重要なのです。就職を希望する3年生は、就職活動に向けて仕上げの時期を10月に迎えます。

低学年から培ってきた自分力が、いかに就職活動本番で発揮されるかの裏付けが、立命館大学キャリアセンターの「進路未決定者の特性分析」報告により明らかになっています。これは、就職を希望しながら決定に至らなかった学生の学生生活を分析したもので、分析の際の指標として、GPA値、課外活動参加、インターンシップ参加、ゼミナール登録が使われています。GPA値が下位層における課外活動等への参加状況は、ほぼ完全な相関関係で参加率が低く、また、インターンシップの参加がなく、ゼミナールも未登録となっています。このことは、「進路未決定者」が、知的トレーニングの場として重要なゼミナールの機会や、課外活動に参加するモチベーションを持たず、自己を耕すことのないまま学生生活を過して就職活動に直面し、高いハードルを乗り越えられなかった結果、無業者となっていることが見てくると分析しています。加えてこの分析結果から、いわゆる難関企業に進出する学生の多くは、入学後の早い時期から「目標設定」を行っており、大学が用意した各種プログラムを活用して、自らの学生生活を充実させていることも明らかになっています。

本学としても、入学後の早い時期から、学生に対して、将来のビジョンを考えることによって学びの目標を持たせ、職業観を育てるためのキャリア形成のサポートに真剣に取り組まなければならないことを強く感じます。大学のあらゆる分野で、就職部の最大課題である学生一人ひとりの自らのキャリア形成に向けて、取り組みが始まっています。

問い合わせ先 就職課 TEL.022-264-6481

## Admissions info.

## 入試センターより

### AO入試 A日程 はじまる

AO入試 A日程 第一次選抜への出願が、8月28日から始まっています。9月24日までの出願者数は、次のとおりです(カッコ内は募集定員)なお、A日程の最終出願締切日は10月15日です。

文学部 英文・昼 70/45名 英文・夜 22名 キリスト教 12名 史 90/20名  
 経済学部 経済・昼 102/45名 経産 05名 経産 82/23名 経産 42名  
 法学部 法律 68/35名  
 工学部 機械創成工 21/12名 電気情報工 31/10名 物理情報工 14/6名  
 環境土木工 20/10名  
 教養学部 人間科学 20/5名 言語文化 32/5名 情報科学 22/4名

第一次選抜でA・B・Cの評価を受けた方は、第二次選抜に出願できます。第二次選抜は、11月20日に行われ、最終的な合格発表は11月29日です。

また、AO入試 B日程 第一次選抜への出願期間は、11月21日から11月27日までです。

### 入学辞退者への対応について

私立大学合格後に納入した学納金等が、入学を辞退しても返還されない問題が取りざたされていますが、本学では既に分納や延納の制度を設けて対応してきました。

さらに平成15年度入試では、納入完了者で何らかの理由で入学辞退を希望する方には、平成15年3月31日午後3時までに入学辞退手続きを行えば、入学金を除く学納金等を返還することになりました。

問い合わせ先 入試課 TEL.022-264-6455

### 教育研究振興資金募集のお願い

学校法人東北学院では、平成11年8月1日から平成16年3月31日の期間を定めて、次の事業の完遂に向けて、教育研究振興資金を募集しております。広く皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。

#### 【募金目標額10億円】

1. 東北学院育英奨学基金の増額
2. 東北学院高等学校校舎(家庭科実習室等)整備
3. 東北学院大学教育・管理棟建設(土樋キャンパス)

詳しくは、東北学院法人本部募金事務室までお問い合わせください。  
 〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1 TEL.022-264-6467 FAX.022-264-6458

### 東北学院大学

土樋キャンパス  
 大学院：文学研究科、経済学研究科、法学研究科  
 学部：文学部・経済学部・法学部(各3・4年)  
 文学部二部、経済学部二部、夜間主コース  
 〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号  
 TEL.022-264-6421 FAX.022-264-3030

多賀城キャンパス  
 大学院：工学研究科  
 学部：工学部  
 〒985-8537 宮城県多賀城市中央一丁目3番1号  
 TEL.022-368-1116 FAX.022-368-7070

泉キャンパス  
 大学院：人間情報学研究科  
 学部：文学部・経済学部・法学部(各1・2年)  
 教養学部  
 〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目1番1号  
 TEL.022-375-1121 FAX.022-375-4040

### 東北学院中学・高等学校

〒980-0811 仙台市青葉区一番町一丁目1番1号  
 TEL.022-227-1221(代) FAX.022-227-6302

### 東北学院榴ヶ岡高等学校

〒981-3105 仙台市泉区天神沢二丁目2番1号  
 TEL.022-372-6611(代) FAX.022-375-6966

### 東北学院幼稚園

〒985-0862 宮城県多賀城市高崎三丁目2番7号  
 TEL.022-368-8600(代) FAX.022-309-2655



ウーラノス

東北学院大学 広報誌 vol.11

### 広報誌編集委員会

委員長	総務担当副学長	関根 正行
副委員長	総務部長	飯土井公洋
編集長	宗教部長	佐々木哲夫
委員	文学部教授	遠藤 健一
	経済学部教授	小笠原 裕
	法学部教授	齋藤 誠
	工学部教授	星宮 務
	教養学部教授	片瀬 一男
	総務部次長	高橋 征士
	総務部調査企画課長	石井 勝雄
	総務部総務課長補佐	桔梗 元子
	総務部調査企画課係長	小原 武久
	総務部調査企画課	石上 貫繁

東北学院大学広報誌『ウーラノス』に関するご意見・ご質問をお待ちしております。今後とも皆様のご期待に沿えますよう、編集いたします。なお発行日は、6月・10月・2月となっております。

発行日 平成14(2002)年10月20日  
 編集 東北学院大学 広報誌編集委員会  
 発行 東北学院大学  
 〒980-8511  
 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号  
 TEL.022-264-6424 FAX.022-264-3030  
 URL http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/  
 E-mail c.kikaku@staff.tohoku-gakuin.ac.jp  
 印刷 株式会社エイベー

